

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

国家試験受験までのあゆみ

通信教育部社会福祉学科卒業生 **太田 唯雅**

はじめに

この度、『With』に私の体験を掲載させていただくにあたり、昨年のスケジュール帳や学習計画を立てたノートを確認したところ、もっと効率よくできたのではないかと反省ばかりしてしまいました。それでも国家試験に合格できた体験を知っていただき、国家試験を約2カ月後に控えた皆さま、社会福祉士をめざしている皆さまの参考になれば幸いです。

無理はしないけど頑張ること

2016年4月に3年次編入学をした私は、「2年で卒業して、卒業する年の国家試験に合格する」という目標を立て、達成するために「無理はしないけど頑張る」ということを心がけました。

その理由は、2年間で学習をやりきるためには、睡眠時間の確保や食事はきちんととる等、これまでの生活のペースを変えないことが必要だと感じたからです。そして、仕事を続けながら学ぶと決め、仕事に穴を空けずに勉強を続けるためには、無理はできないと思いました。

また、一人きりの学習で行き詰まらないように、可能な限りスクーリングに出席し、先生方や職員の方々、学生の仲間である皆さまから学習の助言や刺激を得ることで、自然と勉強のやる気が起きるようにしていました。スクーリングで同じ目標に向かい頑張っている学生の皆さまに出会わなければ、私は勉強が続かずに挫折していたと思います。

問題集を解くだけが試験勉強ではないという気づき

国家試験に向けた学習について、事前に立てた学習計画では、レポートや実習と並行して8月から少しずつ勉強を進めていこうと考えていましたが、実習を始めてすぐにその考えが甘かったことを痛感しました。

私は、地元の社会福祉協議会で7～8月にかけて実習をさせていただきました。常に覚えることが沢山あり、日々の実習記録の作成に時間がかかり、試験勉強の時間はありませんでした。

しかし、社会福祉協議会の実習で職員の方からたくさんお話を伺うことができ、福祉に関する法律や制度を実際に利用している現場を知ることができました。すると、実習での学びが国家試験の学習範囲と重なっていることに気づきました。後に試験勉強をしながら「ああ、実習の時に教えてもらったことだ」と感じた瞬間が何度もありました

実際の学習の取り組み

実習終了後も、レポートや卒業試験に手一杯となり、10月に受けた全国模試の結果は、合格点とは程遠い点数となってしまいました。そのような状況で、やっと11月の中ごろから学習を始めました。実際に使用した参考書等を紹介していきます。

- ①『2018年版 U-CANの社会福祉士 書いて覚える！ワークノート』
(ユーキャン) 用語の意味や各科目のポイントを掴むために使用しました。解説を見ながら、書き込める方式が私に合っていました。
- ②『2018社会福祉士国家試験過去問解説集』(中央法規) 上記①と同時に過去問にも取り組みました。とりあえずと思い、前年度である2017年度の過去問を解いてみると、合格点には届かず、77点。0点科目はありませんでした。その時、自分でも不思議なのですが11月の時点で合格点を

満たしていないにも関わらず、「0点科目も無いし、あと13点上げれば合格できる」と考え、前向きに学習を進めることができました。過去問は3年分を3回ずつ行い、1回目は時間を計りながら問題を解き、自己採点をした後に解説を読みました。この時、正解した問題についても、勘で正解したものもあるので解説は全問読むことにしました。2回目、3回目は1回目と同じように取り組み、間違えた問題のみ解説を読みました。間違える問題は毎回ほぼ同じ科目でした。それと共に、問題を繰り返し解くことで、問題文や選択肢の言い回しから、正答を導き出すことができるようになりました。

- ③『らくらく暗記マスター 社会福祉士国家試験2018』（中央法規）仕事の空き時間やスクーリングなどの電車移動の際に読むために購入しました。試験当日も持参し、読んでいた用語や人物名が本番の問題に登場しました。

その他、大学から定期的を送られてくる模擬小テストは毎回取り組むようにしました。また、中央法規の「実力アップ講座」および「最終チェック講座」も受講しました。

試験当日から合格発表まで

試験当日、移動時間は『らくらく暗記マスター 社会福祉士国家試験2018』を読み、会場に着いてからは、過去問の間違った部分を確認しました。試験中は、試験会場の独特な雰囲気があり、とにかく緊張していました。問題を解き終わった後は、設問の指示や、マークシートのずれがないかを何度も確認しました。

そして、試験日から合格発表までの1カ月半近くの期間は、解答速報を参考に自己採点を行いました。私が受験した第30回社会福祉士国家試験

は、平均点が高く、合格点が例年よりも上がると言われていたため、不安な日々を過ごしました。

合格発表の日、自分の受験番号を見つけた時は、嬉しさよりも安心した気持ちが強かったです。合格証と共に記載された点数を見ると褒められたものではなかったですが、合格証を手にした喜びを忘れることはありません。

おわりに

社会福祉士国家試験合格という目標を達成することができたのは、熱いご指導をいただいた先生方、丁寧に対応していただいた大学職員の方々、スクーリングや演習で出会った学生の方々はもちろん、協力してくれた家族、理解して応援して下さった仕事の関係者の方々のおかげです。

そして、『With』をご覧の皆さまへ、最後までお読みいただきありがとうございました。私も福祉についてまだまだ勉強中です。共に頑張りましょう。

スクーリング・アンケートより(2)

アンケートより、スクーリングの感想を抜粋しました。

●福祉法学 菅原 好秀

- ・以前、法律家をめざしてロースクールで勉強していましたが、そこでは全ての行為の主体であるはずの「人間」について感じられない無機質な学問、授業という印象でした。ところが「福祉法学」の授業は「人間」や「心」を通して法学を学んでいくという姿勢で、非常にイメージも掴みやすく、かつ新鮮で、これが福祉的な視点だと感動しました。とても面白かったです。
- ・最初に先生の説明→テキストを見ながら再度確認→問題を解くという流れだったので、難しい内容だったのですが効率よく覚えることができました。授業の流れがシステマチックだったのでとてもわかりやすかったです。

●福祉行財政と福祉計画（福祉計画法） 佐藤 英仁

- ・行政の内容ということで、苦手な科目ですがより身近に感じられるように本県状況を具体的に挙げたり、内容に合わせて考える時間を設けたり、関心が持てるように工夫された講義だったと感じます。資料も沢山ご準備いただきありがとうございました。
- ・教科書を読んでもなかなか頭に入ってこなかった内容が、講義を通じてスーッと入ってくるような気がしました。ポイントがわかりやすく、復習に力を入れようと思います。

●障害者福祉論 小佐々 典靖

- ・訪問したことのある地域の障害者福祉センターについて、教科書、法令、行政との関係などで位置付けを確認でき、とても興味深かった。わかりやすく学ぶ者の立場でいろいろアドバイスをいただき、ありがとうございました。

●障害者福祉論 関川 伸哉

- ・良い意味で、とても追い込まれました。でも充実していました。教員免許で福祉の世界に入った私にとって、知らなくて申し訳ないと思うことが多かったのですが、今回で知ることができたので忘れないように復習しながらがんばります。

●障害者福祉論 齋藤 征人

- ・相談支援業務に就き、知識や根拠の少なさから迷いがあり勉強を始めましたが、今回の講義で、改めて当事者の声を聴くことの大切さを学びました。
- ・障がい者として認定されている側の思いや、周囲側の偏見による捉え方など、無意識にしていた行為を思い返させられました。